

東松照明 一長崎一 展

2016年5月28日(土)～7月18日(月・祝)

戦後日本を代表する写真家・東松照明（1930-2012）が50年にわたり撮影を続けた長崎。広島と同様に原子野となった街の再生を歴史や風土に迫る視点で切り取った、およそ350点の作品を紹介します。

戦後日本を代表する写真家が記録した被爆地ナガサキ

東松は名古屋市に生まれ、愛知大学を卒業後上京し、岩波写真文庫のスタッフとなります。数年後に独立し、1959年に奈良原一高や細江英公らと写真家集団 VIVO を設立。社会を鋭く見つめることで独自の表現方法を追求し、中平卓馬や森山大道など次世代の写真家に強い影響を与えてきました。

1961年に初めて長崎を訪れ撮影を行い、土門拳らとの共著『hiroshima-nagasaki document 1961』を刊行します。原爆の残した爪痕の深さや被爆者の苦しみに大きな衝撃を受け、その後何度も長崎に足を運ぶことになり、1966年には『<11時02分> NAGASAKI』としてまとめました。一方で、長年続けてきた国内の米軍基地の撮影をきっかけに沖縄へ渡り、沖縄の島々や東南アジア各地を撮影し、代表作『太陽の鉛筆』（1975）を出版します。この時期を境に、作品はモノクロームからカラーへと転換していきます。

人そして街に寄り添い続けた東松作品が語りかけるもの

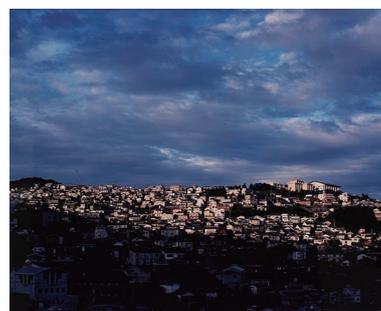
1998年には長崎へ移り住み、同世代の被爆者と「伴走」するまなざしを持ちながら、長崎各地を歩き、多様な歴史と文化が入り交じる表情豊かな町並み、自然、人々や動物のユーモラスな仕草、長崎を象徴する祭事などを重層的に捉えました。モノクローム作品では計算し尽くされた構図と陰影から湧き立つような力強さがあらわれ、色鮮やかなカラー作品からは細部の質感や手触りまでも感じ取れるかのようです。撮影した年や場所、テーマにとらわれず構成される「群写真」あるいは「曼荼羅」と呼ばれるスタイルによって、社会性と現実性が時空を超えて共存する圧倒的な世界は、作品の前に立つわたしたちに多くのことを語りかけてくるでしょう。

開催概要

- | | |
|--------|--|
| 【会期】 | 2016年5月28日(土)～7月18日(月・祝) |
| 【開館時間】 | 10:00-17:00 ※入場は16:30まで |
| 【休館日】 | 月曜日(7月18日を除く) |
| 【観覧料】 | 一般1,030(820)円、大学生720(620)円、
高校生・65歳以上510(410)円
※()内は前売りおよび30人以上の団体料金 ※中学生以下無料 |
| 【主催】 | 広島市現代美術館、中国新聞社 |
| 【後援】 | 広島県、広島市教育委員会、広島エフエム放送、尾道エフエム放送 |
| 【協力】 | 長崎県美術館、東松照明オフィス INTERFACE、
AKIO NAGASAWA Gallery/ Publishing |



《爆風により崩壊した浦上天主堂の天使像 本尾町》1961年



《町並2 上小島方面》1966年



《ピンコロの石畳 麴屋町》2000年



《無題 長崎市内》1975年

写真全て
長崎県美術館蔵
©Shomei Tomatsu - INTERFACE

作家を知るための対談・トークから写真にちなんだワークショップまで 展覧会をもっと楽しむための関連イベント

オープニング記念対談 「東松照明、その素顔と長崎への想い」

日時／5月28日(土) 14:00～15:30

出演／東松泰子(東松照明オフィス INTERFACE 代表)

今福龍太(文化人類学者・批評家)

会場／当館地下1階ミュージアムスタジオ

定員／120名

※要展覧会チケット(半券可)

※当日10:00より受付にて整理券を配布します

トークイベント「森山大道、東松照明を語る」

日時／6月4日(土) 14:00～15:30

出演／森山大道(写真家)

聞き手／長澤章生(AKIO NAGASAWA Gallery/ Publishing)

会場／当館地下1階ミュージアムスタジオ

定員／120名

※要展覧会チケット(半券可)

※当日10:00より受付にて整理券を配布します

講演会

「リアリズムを超えて—東松照明による戦後日本の表象」

日時／6月12日(日) 14:00～15:30

出演／竹葉丈(名古屋市美術館学芸員)

会場／当館地下1階ミュージアムスタジオ

定員／120名

※要展覧会チケット(半券可)

※当日10:00より受付にて整理券を配布します

写真ワークショップ

写真を「見る」「選ぶ」ことに特化した2日連続のワークショップです。

日時／7月2日(土)・3日(日) 各日13:00～16:30

講師／石川直樹(写真家)

対象／①高校生以上

②写真を撮っている人(フィルム/デジタル、プロ/アマチュア問わず)

③2日間両日とも参加できる人

④自分が撮影した写真のプリント(20～30枚程度)を持参できる人

定員／25名

会場／当館内(参加者には後日通知)

参加費／1,000円(2日分)

※要事前申込、申込多数の場合は抽選

●申込方法／氏名(参加者全員)、年齢、代表者の住所、電話番号を明記の上、当館ウェブサイト上の応募フォームまたは往復はがきでご応募ください。

※1通につき2名まで申込可。

※申込締切：6月10日(金)必着(応募フォームは同日17:00まで)

※申込多数の場合は抽選し、6月18日頃までに連絡します。

[往復はがき送付先]〒732-0815 広島市南区比治山公園 1-1

広島市現代美術館「写真ワークショップ」係

ギャラリー・トーク

日時／5月29日(日)、6月26日(日) 14:00～15:00

※事前申込不要、要展覧会チケット

【同時開催】

●コレクション展 2016- I あふれる「せい」 一生、勢、盛、精
～2016年6月5日(日)

●コレクション展 2016- II コレクション・ハイライト+特集「ヒロシマの現代美術」

2016年6月18日(土)～9月25日(日)

【次回開催】

●特別展 1945年±5年

2016年7月30日(土)～10月10日(月・祝)

広島市現代美術館(学芸担当:小島 広報担当:後藤、鈴木)

〒732-0815 広島県広島市南区比治山公園 1-1

TEL/ 082-264-1121(代表 ※公表用)・082-264-1146(直通)

FAX/ 082-264-1198

E-MAIL/ hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp

